



新型コロナウイルス 感染症の最前線で



新新型コロナウイルス感染症の国内での感染が確認されてから2年近く。この新たなウイルスは、経済に大きな影響を与え、私たち一人一人の生活を大きく変えました。今回は、新型コロナウイルスの最前線の現場で、私たちの生活の安心・安全を担う看護師、保育士、介護福祉士の皆さんを迎えてお話を伺います。

施設での生活が一変 感染防止に心を砕く日々

市長 新型コロナウイルス感染症がもたらした社会全体への影響は計り知れないものがあります。さまざまな苦労の中、私たちの生活の安心・安全のために、医療や福祉の最前線で奮闘してくださっている皆さんには、心から感謝申し上げます。まずは介護福祉士の鈴木さん、特別養護老人ホームにお勤めですね。一人でも感染して広がってしまったら大変ですから、かなり神経を使うでしょう。

対応の中核の医療機関でご尽力いただいています。まずは中澤さん、日高病院では多くのPCR検査にご対応いただいていますね。

中澤 一般の患者さんと接触しないよう完全に経路を分けて、車から降りずに済むドライブスルー方式で行っています。

市長 当初から陽性患者の受け入れも行ってくださいました。が、携わる医療関係者への偏見などもあったと聞きます。ご苦労は相当なものだと思うのですが、従事する皆さんは感染病棟を担当することへのためらいはありませんでしたか。

中澤 現場のリーダーとして看護師一人一人と面談して説明し、理解してもらった上で希望者20人を配属しました。ですが、感染病棟を担当していることを、いまだに家族や恋人にも言えないという人もいますね。

市長 本当によくやっていたいただきました。看護師という職業を選んだ時点で覚悟はおありでしょうが、いくら志があるとはいえ、非常に勇気ある決断ですよ。続いて望月さん、黒沢病院ではワクチン接種を積極的に進めていただきました。

望月 これまで当院で約3万

Mayor Kenji Tomioka



富岡 賢治市長

医療体制整備の支援やワクチン接種の推進など、新型コロナウイルス対策に全力を挙げる。子育て世帯や飲食店を支援するクーポン券の発行など、市内経済の後押しのための施策にも積極的に取り組んでいる

Kahori Nakazawa



中澤 かほりさん

日高病院の看護師。副看護部長。感染症に関する専門的な知識と技術のある、感染管理認定看護師の資格を持つ。早くから陽性患者を受け入れ、感染病棟で現場の指揮を執っている

Shizuka Mochizuki



望月 静佳さん

黒沢病院附属ヘルスパーククリニックの看護師。通常の健診業務に加え、新型コロナのワクチン接種では部門リーダーを務めている。市の集団接種や、大学での学生向けの集団接種も担当

China Shigoka



新後閑 千奈さん

認定こども園の保育教諭。職歴18年。ゆとりを忘れず、子どもたちがのびのびと過ごせる環境づくりを心がける。登園自粛期間中は、在宅の園児に向けて読み聞かせや手遊び歌などの動画配信を行った

Manami Suzuki



鈴木 愛美さん

特別養護老人ホームの介護福祉士。介護職について5年。ガウンや手袋の着用、消毒の実施など徹底した感染対策を行う。緊張の中でも、いつも笑顔を忘れず、冷静な対応を心がけている

鈴木 そうですね。職員が持ち込まないように、手洗いやうがい徹底はもちろん、触れた箇所の消毒は欠かせません。

市長 ご家族の面会も制限しているんですか。

鈴木 緊急事態宣言の間は全てお断りしていました。今もガラス窓越しですが、久しぶりに

直接会えて涙を流される方もいます。

市長 心が痛みます。入所している方もご家族にとってもつらいことですね。感染防止では、保育士の新後閑さんも同様に苦労されたと思います。保育園が閉園になってしまったら、働く保護者の皆さんに多大な影響がありますからね。

新後閑 はい。最初の緊急事態宣言では、保育園まで2か月間も登園自粛になるなんて想像もしませんでした。

市長 保護者の出入りは？

新後閑 全面禁止で、運動会など園の行事は動画配信にしています。直接見られず寂しいとは思っていますが。

市長 職員もご家族も、大変な思いをされているんですね。

見えないウイルスの脅威と闘う最前線

市長 看護師の中澤さん、望月さんには、それぞれ感染症

回、9月からは市内5つの大学に向き、約1800回の接種を行いました。

市長 当初は学生の接種が進まず、苦慮していたんですよ。キャンパスでの接種に手を貸していたご協力ありがとうございました。

接種券が手元になくてもよいとしたところ、多くの学生が受けてくれました。手軽に受けられる環境を整えることは大事です。

望月 そうですね。注射自体に不安を感じる学生さんもありますから、会場を明るくして音楽を流したりして、安心して受けてもらえるための工夫を重ねました。大学側も協力的でありがたかったです。

市長 若い世代の接種率も80%ほどになり、一安心ですよ。

使命と志を胸に

市長 コロナ禍も2年になろうとしています。

鈴木 青森の実家にも帰れず、電話の回数が増えました。

市長 ご家族も会えなくて寂しいでしょうね。

新後閑 コロナに限らず感染症はあります。先ほど偏見のお話もありましたが、かかってしまった人が非難されることのない社会になってほしいですね。

市長 おっしゃるとおりです。

望月 実はうれしいこともありました。民間会社の調査で、女子高生生のなりた職業の1位がキャビンアテンダントを抜いて、看護師だったんですよ。

市長 それはすごい。世間もさちんと見ている証拠ですよ。

望月 ええ、若い人たちにも伝わっているんだなって。こんな年にありませんでした。

市長 皆さんの使命感や志の高さを改めて思い知らされました。介護や保育、医療は、どこも厳しい現場です。まずは処遇改善を何とかしなければいけませんね。

中澤 けっこう楽しい仕事なんですよ(笑)

今後に向け新たな決意を

市長 感染状況は落ち着いています。新たな変異株の出現もあり予断を許しません。

3回目のワクチン接種に向け、医師会などと連携して体制を整えているところです。最前線で頑張っている皆さんにも、ご苦労をかけると思いますが。

鈴木 これからも感染者を出さないよう、職員一人一人が予防に努めていきます。

新後閑 これまでどおり感染防止の対策をしっかり取りなが

望月 より早く多くの人にワクチンをとってほしいので、職員一同頑張ってきました。若い人たちに安心して受けていただき、接種率をさらに上げていきたい。要請があれば大学にも出向きます。

市長 皆さんのような現場の方々を支えられていると実感しました。引き続きよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。

同 ありがとうございます。

対談の様子を動画でご覧いただけます

